



近畿ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時：平成 30 年 11 月 4 日（日） 10：00 ～ 17：15

会 場：大阪産業大学 Wellness2008

内 容：テーマ『クラブのあり方を考える ～地域住民が生涯にわたって心身ともに健康であるために～』

1. 共通プログラム <事例紹介・パネルディスカッション>
「地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの取組み」
2. 独自プログラム <基調講演>
「健やかな日常生活を送るために」
3. 独自プログラム <ブース発表>

参加者：98人

【概要】

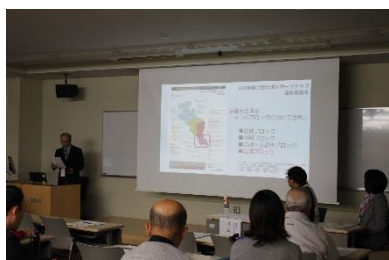
健康寿命の延伸が期待される昨今、地域住民の誰もがスポーツに親しみ、健やかな毎日を過ごすための環境づくりは、言うまでもなく総合型地域スポーツクラブが担うべき役割の一つです。近畿ブロックでは、「クラブのあり方を考える～地域住民が生涯にわたって心身ともに健康であるために～」をテーマにクラブの可能性を考える機会として研修会を開催しました。また、本年度も「府県の枠を越えたネットワーク！共に築き、共に成長する」を合言葉に掲げ、近畿ブロック内のクラブが一堂に会し、知識を深め、交流を深めることで、ブロック全体のレベルアップにも期待するところです。

【内容】

1. 共通プログラム「地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの取組み」

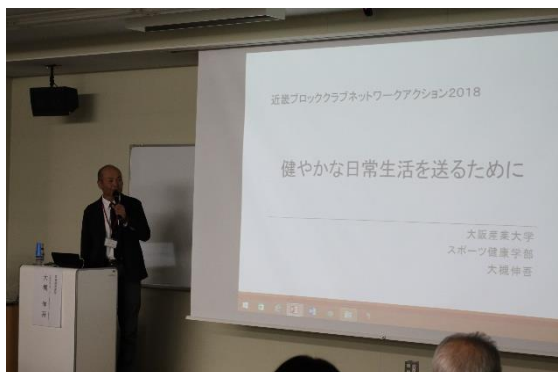
京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会山城ブロックからは、特別支援学校におけるボッチャの大会「ボッチャDE祭り」について、滋賀県のNPO法人YASUほほえみクラブからは、養護学校での教室開催と国のモデル事業受託を中心に「教室開催への道のり」について、兵庫県のNPO法人加古川総合スポーツクラブからは、障がい者も一緒にスポーツを楽しめる環境づくりやスポーツ推進委員との連携による「障がい者スポーツの拠点づくり」について、それぞれ紹介をいただきました。

プログラム後半のパネルディスカッションでは、①それぞれの取組みに至った経緯、②事業を進める上での問題点と改善策、③参加者に興味を持ってもらうための工夫、④他クラブや他団体との連携のあり方について、発表者に質問が投げ掛けられました。取組みに違いはあるものの、他クラブや地域の団体、行政と上手く連携しコミュニケーションを図りながら、アイデアを出し合い、円滑な運営を実現されていることが理解できました。



2. 独自プログラム<基調講演> 「健やかな日常生活を送るために」

大阪産業大学スポーツ健康学部スポーツ健康学科教授の大槻伸吾氏により「健やかな日常生活を送るために」と題した基調講演がおこなわれました。冒頭で、メタボリック症候群（内臓脂肪の蓄積）、ロコモティブ症候群（運動器機能の衰え）のメカニズムについて解説され、その後、疾病予防のための取組みについてお話がありました。健康運動指導士、健康運動実践指導者などの資格を持つ専門指導員と大阪産業大学の学生が、大東市内の高齢者を対象に、定期的に市内の各会場を訪れ運動教室をおこなう「大東ダイナミックプロジェクト」や、NPO法人いきいき大東スポーツクラブが大阪産業大学の施設を利用した大学との共同事業を通して学生が地域住民とふれあい、大学の持つノウハウを活かし地域に貢献されているところは、クラブと大学との関わり方の模範とも言えるのではないのでしょうか。



3. 独自プログラム<各クラブのブース発表>

第1ブース：ラジオ体操を通じた住民への健康普及

○NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南（和歌山県）

高齢者を対象とした介護予防普及啓発事業を市から受託。

ラジオ体操を通じた健康づくり事業で、ラジオ体操の普及が地域住民の積極的な運動機会への参加に繋がっている事例の発表がありました。

事業受託に至った経緯、その他の活動事例についても紹介がありました。



第2ブース：子どもの運動習慣アップ事業

○きのもと eye's（滋賀県）

幼児、児童を対象とした事業の紹介がありました。

この事業は、滋賀県連絡協議会が県から受託した事業で、過去4年間の事業受託を経て、昨年度、滋賀県連絡協議会オリジナルの「運動遊びプログラム-P i c」が完成し、本年度から県内各地で実践事業を展開することが発表されました。



第3ブース：おむすびプロジェクト

○NPO法人アスロン（兵庫県）

子ども食堂の朝食版である「おむすびプロジェクト」について発表がありました。

このプロジェクトは、ラジオ体操の後はみんなでおむすびを食べ、公園の清掃など地域のお手伝いもおこなうものです。8月限定ではありますが「元気な身体づくりと優しい街づくり」を合言葉に、児童と住民の交流が図られているとのことでした。



第4ブース：おやこ教室の事業展開

○特定非営利活動法人長野総合スポーツクラブ（大阪府）

1歳半から2歳児を対象とした親子（ちびマミー）の運動遊び教室について発表がありました。

この教室では様々な動きを体験することで「動き」の経験値を上げ、次のカテゴリーであるプチキンダー（3歳児）、キンダー（4歳から5歳児）に繋げることを目的としています。

子どもの育ち、親の育ちを見守る事業になっているとのことでした。



第5ブース：誰でも楽しめるニュースポーツ体験

○長五校区総合型地域スポーツクラブ（京都府）

「ウェルネスダーツ」、「トリコロキューブ」、「ワンバウンドふらば〜るバレー」の3種類のニュースポーツが紹介されました。脳の活性化を図りながら、世代を越えた交流にもなり、安全で誰もが楽しめるもので、あまり馴染みがない種目ですが参加者の注目度も高いようでした。



第6ブース：女性・シニア世代のわくわくイキイキ健康サポート

○元気☆ひまわりクラブ三郷（奈良県）

女性、シニア世代を対象とし、いきいき体操、ソフトエアロビクス、ヨガ、フラダンス、ノルディックウォーキング、大人のテニスなどの教室について発表がありました。

参加者アンケートの回答を講師とも共有し、満足度が持続できるよう改善に努めているとのことでした。



【まとめ】

共通プログラムの「地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの取組み」では、他クラブや地域の団体と連携・協力を図りながら円滑に事業を進めておられるところが発表クラブ、団体の共通点と言えます。また、それぞれが抱えている課題や解決策をお話いただいたことは、今後、参加者が事業を進める上で大変参考になる内容でした。

独自プログラムの基調講演「健やかな日常生活を送るために」では、異所性脂肪、ロコモティブ症候群（運動器機能の衰え）のメカニズムや、大学、クラブの健康づくり事業の取組みを知ることで、クラブが担うべき役割や、クラブの可能性を考える機会となりました。

また、ブース発表では、6 府県の特徴的な活動をされているクラブが発表をされ、それぞれが住民ニーズに対応し、地域課題の解決にも繋がる取組みをされていることから、参加者の関心を集めました。

障がい者スポーツへの取組みや健康づくり事業は、クラブが更なる成長を遂げるには、越えなければならぬ壁かもしれません。でも、取り組まなければならない事項であっても、何から手を付けていいのかわからないというのが率直な思いです。乗り越えるためには、まず、今回の研修に参加された皆さんが、得た情報や感じたことを持ち帰り、クラブ内で議論することから始まります。そして、クラブで解決できなければ、府県連絡協議会に投げかけ議論する、場合によっては、近畿ブロックで議論する、そして、研修会会場だけに留まることなく、一つの議論が行き交うことで、近畿ブロック内全体がこれからの地域スポーツを考える機会になればと思います。近畿は一つ。共に築き、共に成長するために。

近畿ブロッククラブネットワークアクション 2018 実行委員長 大原 克彦

※本ネットワークアクションは、東京 2020 応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

